

待降節第2主日

第1朗読 バルク 5・1-9

第2朗読 フィリピ 1・4-6、8-11

福音朗読 ルカ 3・1-6

2021.12.5 カトリック高円寺教会

ジョン・ジュン神父（クラレチアン宣教会）

ある調査によると、98パーセントの女性は自分の外見に自信がなくコンプレックスを感じているそうです。いろいろな方法で美しさを求めるようです。例えば、お化粧品、ダイエット、ヨーガ、運動、美容、美容整形など、いろいろあります。

古代では、名前で人の運勢が変わると考えられていました。素晴らしい名前を得れば良い運命に変えることができると信じられていました。

聖書の中で、神様は人や場所、民族に新しい名前を付けました。アブラハム、彼の妻サラ、ヤコブ、シモン、ペトロなど。

今の世の中では、勝手に人にあだ名を付けたり、変な呼び名を付けたりしています。人に悪い呼び名を付けたことで、その人の人生に大きな影響を与えてしまう可能性もあります。ギャンブラー、プレイボーイ、嘘つき、裏切り者等の例が挙げられます。

神様は、不幸の中からわたしたちを救われ、そして新しい名前を贈ってくださっていますから、名前は大切にしたいですね。

自分の家族やコミュニティー、教会に、ふさわしい名前を付けるとしたら何と呼びたいですか？ 例えば、「天使の森」。

平和、愛情、正義、友愛、温かい、穏やか・・・それとも、神様が贈ってくれる名前を待ちますか。信仰を持っていれば、神様が新しい名前を示してくださいます。

第一朗読、バルクの預言「お前は神から『義の平和、敬神の栄光』と呼ばれ、その名は永遠に残る。」（バルク 5・4）

イスラエルに、夫と息子を失った女性が喪服を着て、頭巾をかぶり、悲しそうに地面に座っています。食事もできず、シャワーも化粧もしない。絶望していることは外見や態度から見ればすぐ分かります。

あの時代のイスラエルは、聖殿が滅ぼされ、土地を没収され、住民は軍隊に入れられていました。エルサレムは、母親のように自分の子どもたちが鎖をもって兵士に追放されるのを見ました。

バルクが神様の言葉「お前の子らは、神が覚えていてくださったことを喜び、西からも東からも聖なる者の言葉によって集められる。」（バルク 5・5）と述べました。

よって、わたしたちに日々の喜びと希望をもたらしてくださいました。生活にも豊かさが増えました。

第二の朗読 フィリピ

わたしたちは困難に遭遇するとき、すぐに神様にいろいろな必要なことを願います。しかし、イスラエル人は神様に賛美と感謝の気持ちを捧げています。神様を信じ、苦しんでいるときも神様に感謝します。失敗や病気、苦しむときこそ、神様を最も信頼すべきです。求める祈りばかりではなく、賛美と感謝の祈りも必要です。

福音 ルカ

正確な時間で語ったのは、物語ではなく本当のこと、真実です。「七」は全ての代表です。この「七」の中に世俗と神聖が含まれています。ユダヤ人と異邦人が一つになったことも表します。

ヨハネが荒れ果てた野原から来ました。これは、イスラエル人にとって、深い記憶の一つ、味わい深い場所だからです。

荒れ果てた野原の中で、要らないことを諦め、必要なのはお互いに助け合い分かち合い神様を信頼することを学びました。

ヨハネはユダヤ人ですが、彼の生き方は自分の民族とは全然違います。昔、砂漠は大切ではなかった。道もない、作物もできない。しかし、他民族との間の警戒態勢の境界線となっています。重要な役割を果たしています。例えば、イスラエル人はエジプトからカナ（祝福の地）まで、必ず砂漠を越えなければなりません。

ヨハネは荒れ果てた野原を選び、自分の使命を果たし、ヨルダン川から自由の地に入りました。

ポイント：神様は、わたしたちに困難が立ちはだかったとき、ヨハネが荒れ果てた野原を越えたように、わたしたちも自分の心の荒れ果てた野原を乗り越え、悔い改め、神様に近づくことを望んでいます。

わたしたちは人間ですので、血と肉でできています。だから、病気にもなります。間違いも犯す、孤独も感じる、歳を取り老いてしまいます。

神様の約束は、神様の救いは、人間の弱さの中で働きます。どんな淵も暗闇も、神様の愛で埋めて、照らしてくださいます。

この救いはわたしたち人間の一人一人に属します。誰ひとり見捨てることはありません。